

学校経営のポイント

広島大学で“JASE研究大会”開催

若井 彌一

8月5日(土)・6日(日)の2日間にわたり、JASE (Japanese Association of School Education: 日本学校教育学会)の第21回研究大会が広島大学で開催された(大会準備委員会委員長=中野和光・広島大学大学院教授)。

この研究大会は、毎年、慣例として8月の第1土曜日・日曜日に開催されている。

今回は、その一部について速報をお届けする。

公開シンポで“教師力”向上を検討

研究大会では、例年、自由研究発表のほか、「公開シンポジウム」という企画が設けられている。今年のテーマは、「学校は、その教育力を高めるために何ができるか 『教師力』向上のための方略」である(1日目午後)。

司会は、中野和光教授、山口満・びわこ成蹊スポーツ大学教授、また、提案者は、筆者、豊田ひさき・名古屋大学大学院教授、瀬戸健・富山大学人間発達科学部附属小学校副校長、柞麻昭孝・広島県立広島国泰寺高校エキスパート教員(担当・化学)の4者である。

4者は、それぞれ「教育行政・経営研究者の立場」「授業研究者の立場」「学校経営者の立場」「授業実践者の立場」から、テーマである“教師力”の内容や構造がどんなものであり、それ(教師力)を向上させるために何ができるのか、何をしなければならぬか等について、事例を挙げたりしながら、提案した。

詳細について報告・紹介できないのが残念であるが、中教審答申(平成17年10月)以降、ちょっとした流行語になっている感のある“教師力”につい

て、その中心をなすのは、「授業する力」あるいは「指導する力」であることの確認、各学校では個々の教師の資質を高めていくことだけでなく、組織的な指導力を高めていくための積極的な取り組みが必要であることの確認など、フロアーからの質問・意見もプラスに作用し、充実したシンポになった。

課題研究では“教職大学院”がテーマ

研究大会2日目午後は、「課題研究」という企画で、「教員養成・研修システム改革と人材養成 教職大学院構想の功罪を探る」をテーマとして検討が行われた(司会=梅野正信・鹿児島大学教授、西穰司・上越教育大学教授)。

提案者は、葉養正明・東京学芸大学教授、加治佐哲也・兵庫教育大学教授、佐々木幸寿・信州大学助教授である。

3者は、順に、「『教職大学院』制度化によって教職課程はどう変化するか 中教審答申の投げかけた課題」、「各大学における教職大学院の具体化構想 兵庫教育大学の場合」、「大学院における現職教育のこれまでの成果と課題 都道府県教育委員会の側の視角から」と題して提案を行った。

中教審の答申(7月11日)直後でもあり、会員の関心は高く、タイムリーな企画であった。少々時間が足りず、検討すべき課題を十分に詰めることができなかったことが惜しまれる。

8月6日は、広島市の被爆61年目にあたる。参加した会員にとっては、歴史をふり振り返り、平和の大切さを噛みしめる研究大会にもなった。

“JASEの日や 今を盛りと 蝉の鳴く”

(わかい・やいち=上越教育大学教授・附属小学校長併任)

●最新刊発売中! ●

教育開発研究所・刊

菱村 幸彦【編】

A5判 220頁・定価 2415円

『管理職演習 学校の法律問題—こんなとき管理職としてどうするか』

上越教育大学附属小学校【著】 B5判 215頁・定価 2520円

『関係力～「子どもが生きる学力」への挑戦～』